

## 「一般社団法人 超意識之会」のご紹介

(2014年7月19日)

地方自治を監視、糾弾し、また国内外の情勢を分析する記事で定評を頂いている本紙読者には、奇異な印象を抱かれるかもしれないが、興味深い団体のインターネットサイトを紹介してみたい。

『一般社団法人 超意識之会』がそれである。

同社団法人の主張を一見するに、新興宗教かオカルト指向の謎の組織のように思えるだろうが、先入観を捨ててその内容を熟読してみると、彼らは一種の「コペルニクスの発想」を持った思想集団であることが判る。

しかし、単なる思想同好会ではなく、彼らは「超意識」「宇宙の生命エネルギー」といったものを概念化、理念化するに留まらず、実効性のある「パワー」にまで昇華して、現実の病気を根絶しようという取り組みを続けているようだ。

本紙記者が、同社団法人の理事長を務める砂生記宜氏に話を聞いた。

砂生氏は1939年、埼玉県比企郡出身。拓殖大学を卒業後、中国拳法を習得する過程で「気」の力を体験し、やがて「自分の気ので自身の、また他人の病気を治癒できることを発見した」という。

砂生氏は、非常に高度なヒーリング能力を持つ人物であるようだ。個人情報に抵触するので詳細は公表できないが、同法人には社会的な地位の高い会員も多く、凡百のオカルト思想支持派ではないことが窺える。

砂生氏による詳細な解説は、同法人のホームページで読むことができるが、彼らが主張する「超意識」「宇宙の生命エネルギー」という概念は、総じて各国トップクラスの学者たちが、学術的な見地から真剣に研究してきた分野でもある。

砂生氏は、それらの「宇宙と人間の仕組み」を概念として捉えるに留まらず、実際の波動(なんらかの生命的なエネルギー)の実践を続けている。

わかりやすい一例を引けば、『超意識之会』の会員は、基本的に病気にはならないとっている。彼らの活動成果によれば、人間のすべての病気の根源はただひとつであり、それが「悪想念」という、人間の精神の闇がもたらすものだ結論づけている。

西洋医学の前提を覆す彼らの主張や実践データは、現代医学がこれを認めることは有り得ないため、砂生氏と『超意識之会』の存在と活動はメディアに報じられることがないままの状況にある。

しかし、実際に彼ら会員は西洋医療を必要とせず、自然治癒で病気を回復させている。これも現在、世界的に注目され最先端の研究も進んでいる免疫療法と共通する面があるだろう。

思考停止のまま金融資本至上主義に突き進んだ果てに、世界各国で硬直化した病理を引き起こした現代社会に対するカウンターとしても、彼らのような「存在」が、実は真理である可能性も

ないとは言い切れないだろう。

これまでの科学、医学のどれほどが最初から  
真理であったろうか、そして今も？

大手メディアの報道が常に真実ではないのと  
同様、ジャーナリズムの感性からすれば、彼らの

思想や活動の中には、決して「絵空事」と片付け  
てはならない側面があるはずだ。

一度、彼らの主張を通読してみるのも向学の  
為だと思うのだ。

此処に砂生氏の論旨の一部を載せる。

## 人類は存亡の危機にある

“人類は存亡の危機にある”と聞けば、多くの人は地球温暖化・大気汚染・食糧不足・資源の枯渇等を  
思い浮かべるとします。その他に映画やテレビ等で巨大隕石の衝突や異星人の襲来、伝染病の猛威等を  
題材にした人類滅亡の場面を思い起こすでしょう。しかし、私たちがこれから発表する人類存亡の危機の内容  
は、全く違うものです。これを信じるか否かは、このブログの読者の判断にお任せします。

人間は自然界の一員であることを何回となく説明してきました。自然界の一員である以上、自然界の法則  
から外れることは許されません。ところが、人間だけは自然界の法則から外れて生きてきました。その人間の身  
勝手さも、通用しなくなりました。この自然界を支配しているのは宇宙意識です。その宇宙意識の堪忍袋の緒  
が切れました。

何故、宇宙意識の堪忍袋の緒が切れたのかと言いますと、人間が自然界の法則を守ることなく、好き勝手  
なことをやり放題だからです。でも、一般の人々には自然界の法則と言っても分からないでしょうから、基本中の  
基本である要点だけを挙げておきます。その後で、項目の一つ一つについて説明して行きます。

この自然界の法則は、私たちが考えて作ったものではありません。私たちが20年以上の歳月をかけて宇宙  
意識から少しずつ伝えられたり、私たちが体験によって掴んだものです。人間の幼稚な頭脳によって考えたもの  
でないことだけは知っておいて下さい。

### 《 自然界の法則 》

宇宙は生命体であり、高次元の意識が存在する。

死後の世界は存在しない。それは人間の妄想である。

地球上の生きものは全て宇宙生命力によって創られた。

人間の生命はこの世で最も尊いものである。

両親には無条件の感謝をしなさい。

性器は神聖にして尊いものである。決して汚してはならない。

男女は真実の愛で結ばなければならない。

子供は愛の結晶であるから、我欲で育ててはならない。

以上が宇宙意識から伝えられた自然界の法則の中でも基本中の基本です。詳細についてはこれから説明  
致します。

[ 1 ]

私たちが生活しているこの地球も広大な宇宙の一部です。その地球には水があり、空気があり、大地があります。その地球に植物が繁り、海や川には魚たちが、空には鳥たちが、大地には動物たちが棲んでいます。その地球を現在の環境にするまでに45億年の歳月がかかったと云うことです。私たち人間が住めるこの環境が偶然出来たと思いますか。明らかに大きな意識がしっかりとした目的を持って綿密な計画の下に創り上げたと考えるのが自然です。そして、地球上に存在するあらゆる生きものは宇宙が生命体であるから、その生命力から創りだされたものなのです。私たちの生命は、宇宙生命力から戴いたものです。そして、私たちの意識は宇宙意識から戴いたものです。

## [ 2 ]

人間の死は、その現象だけを見れば確かに悲しいことであり、寂しいことです。そこで人間は死後の世界があると信じて、その悲しみや寂しさを紛らわしたのでしょう。しかし、死後の世界はありません。それは人間の妄想です。勿論、神や仏も存在しません。それなのに、日本国内には神社や寺院が到る所に在ります。その内部には実在しない神や仏の像が祀られています。そして、定期的に祭典が行われています。また、外国では教会や礼拝場が乱立しています。人間の愚かさの象徴です。

## [ 3 ]

地球が誕生したのが約45億年前とのことですから、その永遠とも言える時間帯の中で、我々人類が地球上に姿を現わしたのは、500万年前後ではないかと言われています。比較するならば一瞬の出来事です。そして、私たち現生人類（ホモ・サピエンス）の誕生は約20万年前であるとされています。その間に幾つもの人類が誕生したり、絶滅したりしています。何のために、その様な誕生、絶滅が繰り返されたのかと言えば、全ては地球の環境の変化です。人類ばかりでなく、あらゆる生物が地球の環境に適合する様に創られます。ですから環境が変われば、その環境に合った生物が創られて、過去の生物は絶滅して行きます。それが自然界の掟です。

## [ 4 ]

私たち現生人類がこの地球上に誕生したのは約20万年前とするならば、その事を違う視点から見れば、現生人類が誕生して生息出来る環境が整ったから誕生したのであると言えます。この地球の当初は灼熱地獄であつたらしく、生物らしきものが海に誕生したのは、7億年も経ってからであると言われています。その時から38億年経過して、漸（ようや）く、この環境に成りました。先にも説明しました様に、大きな力が働いて地球を計画的に現在の環境にしたと考えるのが最も自然なことです。現在の地球環境が偶然に出来たとか、突然変異が重なって出来たとする方が無理があります。最初から意図的に計画されて、最後に人類を誕生させたのです。人間が生きて行くために必要なものは全て揃えてくれました。大地、空気、水、食物、植物等を用意してくれたのです。これだけの遠大な計画と期待を背負って誕生した人間の生命ですから、この世で最も尊いものなのです。

## [ 5 ]

私たちは両親が居なければ、この世に誕生して来ません。当然のことですが、現在生きていません。ところが不思議なことに、自分の親に感謝出来る人が居ないのです。でも、表面的には母の日や父の日などがあり、その日に形式的な贈物をしてお茶を濁しています。けれども子供の本心は全く違います。それは両親が男女の真実の愛で結ばれていないからです。母親が本当の愛を子供に与えることが出来ないからです。野生動物は何百とか何千と云う数の中でも親子が間違えることはないと言います。人間は野生動物にも悖（もと）るのです。人間である以上、両親への無条件の感謝は当然のことです。

## [ 6 ]

性器は新しい生命を生み出す大切な器官です。いかなる生物も性器が無ければ新しい生命は誕生出来ません。それなのに人間は性器を最も侮辱してさげすんでいます。そればかりではありません。性器を快樂の道具としたり、性欲を処理する道具としています。最近の性の乱れは目に余るものがあります。新しい生命を生み出す性器を弄（もてあそ）びながら、生命の尊さを説くと云う矛盾に誰も気付いていません。特に女性の体は尊い生命を宿す大切で神聖なものです。それは決して汚してはならないのです。胎児は自分が母親の子宮に宿った時に、その子宮が汚れているか否かは直感で分かります。汚れていれば即座に母親への不信感となり、それが人間不信へと繋がります。性器を汚すのは女性遍歴や男性遍歴だけではありません。最も汚すのは性的妄想です。これは他人に知られることなく常に妄想に耽（ひた）っていられるからです。そして、最も恐ろしいのは、オーガズム中毒になることです。これによって人生は地獄の苦しみへと陥ることになります。しかし、この因果関係は誰にも分かりません。とにかく、性器は生命よりも大切なものです。神聖にして尊い宝物として決して汚してはなりません。

## [ 7 ]

人間には男と女が居ます。何のために男女が存在するのか。それは誰にも分かることです。男女が居なければ新しい生命が誕生しないからです。そして、男女は真実の愛で結ばれなければなりません。ところが人類は数万年前に愛を封印してしまいました。ですから、それ以後は男女の間に真実の愛は育たなくなったのです。愛だと思っているのは全て性欲です。性欲を愛だと錯覚しているだけなのです。その錯覚にすら気付いていない人が殆んどです。

男性の意識の奥底には、凄まじい女性蔑視と女性への恐怖があります。同じ様に女性には凄まじい男性不信と男性への憎悪があります。これは特定の間人ではなく、全ての人にあります。この悪想念をお互いが持っているのに結婚して一緒に生活するのですから、幸せな家庭が築ける訳がありません。更に、結婚すれば当然のことですが、夫婦の性生活が始まります。そして、次第にオーガズムの快感を覚えてしまいます。こうして知らず知らずの内にオーガズム中毒となり、地獄への道にのめり込んで行きます。こうなると、外見上は仲睦まじい夫婦を装っても、内面は親の敵同士の様な夫婦となり、何時離婚してもおかしくない状況になります。男女がこうなったのも愛を封印してしまったことが原因です。これは人間の能力では解決不可能です。あらゆる人間の病気も不幸も災難も、全てが男女の唾み合いが原因です。

## [ 8 ]

本来であれば、男女が真実の愛で結ばれて、その愛の結晶として産まれて来るのが子供です。しかし、この人類の男女には真実の愛は在りませんから、夫婦の愛の結晶として産まれる子供は一人も居ません。全ては性欲の結晶です。そんな子供ですから、母親が子供を可愛いと思うことはありません。産まれてしまったから、愛していない男との子供でも仕方なく育てます。それは母の愛ではなく、我欲そのものです。子供は私有物であり、自分の欲求不満の捌（は）け口ですから、過酷な勉強、スポーツ、稽古事などで子供を苦しめたり、泣かせたりします。それは表向きな躰であって、実際にはそうすることが快感なのです。母親のこうした仕打ちに耐えて育つ子供にはいろいろな病気が発生します。アトピー性皮膚炎、アレルギー、小児喘息、小児ガン、小児糖尿病等々です。その子供を、意識も生命も認めない医師に診せますから、子供は二重、三重の苦しみを味わうこととなります。

男女の真実の愛が無いばかりに、この人類の負の連鎖は永遠に続くこととなります。

以上の説明で、自然界の法則の概要は分かって頂けたと思います。ここに挙げた八項目は最も重要なものです。この重要な項目ですら守られていないのが現代の人間社会です。宗教や科学、医学、教育によって、人間は自然界の法則とは全く懸け離れた生活を送っています。宇宙意識としては、45億年と云う歳月をかけて、人類が生存出来る地球環境を創り上げたのに、宇宙意識が目的とした男女の真実の愛で結ばれた、しあわせな生活とは程遠いものとなりました。男女は唾み合い、戦争で殺し合い、自然を破壊し、如何わしい教えを信じている。宇宙生命力によって生命を授かっているにもかかわらず、自分たちの力で生きてると信じて疑わない。宇宙生命力に少しも感謝の出来ない人間どもをこれ以上生かしておく訳にはいかない。そろそろ始末をする時が来たようである。これ以上放置すれば、大切な地球が崩壊してしまう。この様に判断したものと思います。

それでは、宇宙意識が人類を始末すると云うことは何を基準にして、どの様に処分するのかについて、私たちが知っていることをお話しします。勿論、公表できないこともあります。

先ず、基準となるのは本気で男女の真実の愛を求めているか否かです。宇宙意識が人類を誕生させた目的は、この一点に尽きます。男女の真実の愛を求めするには、両親への無条件の感謝と性器を宝物として大切にしている人以外は出来ません。これに対して容赦はありません。残れる人間は恐らく、一割前後ではないかと思えます。

次に、処分する方法ですが、人間の生命は全て宇宙生命力のものですから、宇宙生命力が人間に与えている生命を人間から抜き取ればよいのです。この人類を絶滅させようと思えば、約70億の人間の全てを一瞬で死滅させることが出来ます。それでは、これまでやりたい放題のことをやってきた人間たちを処罰することにはなりません。徐々に死なせて極限の恐怖を与えなければ、人間は気付けないと思えます。それには原因不明の突然死です。それから逃れる手段はありません。宇宙ステーションに居ても、海底深く潜水艦で潜（もぐ）っても、地下室に隠れても、何の効果もありません、また、いかなる権力者も大富豪も著名人も企業家も名門家系も全く関係ありません。スポーツ選手がどんなに肉体を鍛えていても役に立ちません。選別基準に合致するか否かだけです。

私たちは、この人類が存亡の危機にあることを公表する以上は、それなりの覚悟があります。このブログに書かれていることが、1年経っても2年経っても実現しなかった場合は、世の中を荒唐無稽の嘘で誑かす不逞の輩として糾弾されても当然のことです。それなりの制裁は受けなければなりません。

しかし、現実に現象が起こった場合は、時すでに遅しと思って下さい。人間の能力では何も出来ません。世界中の大都市に林立している高層ビルは人類の墓標として役立つでしょう。対象となる人間は老若男女を問いません。幼児から高齢者までに及びますし、病人は全て処分されます。異常気象とか、自然災害などは眼中に無くなるでしょう。全ては人類が犯してきた罪の償いです。

次のことは私たちの推測ですが、宇宙意識としては、この人類を絶滅させたいのではないかと思います。絶滅させて、10万年も経てば、この荒された地球は元の緑豊かな地球に戻ります。それから新しい人類を誕生させれば、今回の失敗作である人類は教訓として活かされます。それを目論んでいるように思えてなりません。そうならないためにも、一人でも多くの方が自然界の法則を実践して下さい。

もし、生き残った人たちが居れば、突然死で裁かれた人間が如何なる人たちであるかを調べることによって、宇宙意識が何を人類に教えようとしているかが自ずとみえてきます。出来ることなら、それによって新しい人間社会を築いて行きたいと願っております。

しあわせに生きよう

～ 男女の真実の愛が人類を救う ～

<http://chowishiki.blog.fc2.com/blog-entry-3.html>